

# 目次

1. 本書の構成					
本書	序	.....	.....	.....	1
2. 収録語	凡例	.....	.....	.....	7
本文篇	本文篇	.....	.....	.....	11
3. 本文篇の構成	ア	11	イ	48	ウ
見出し					82
(1)単語、熟語	エ	130	エ	130	オ
(2)同語で	カ	135	キ	157	ク
参照した。他の					174
(3)見出し	ケ	204	コ	205	ケ
(4)片仮名	カ	135	キ	157	ク
(5)すべて	ク	174	ケ	204	コ
がりを	コ	205	サ	211	シ
無枝の					226
4. 方言の	シ	226	ス	271	セ
方言は					275
仮名・音	ス	271	セ	275	ソ
土段は					275
文字で	タ	277	チ	298	ツ
ついては					332
ア	チ	298	ツ	332	テ
ka					332
(ka)	テ	332	ト	344	ト
ガ					344
ga	ト	344	ナ	367	ニ
(ga)					389
サ	ニ	389	ヌ	397	ネ
sa					407
(sa)	ヌ	397	ネ	407	ノ
シヤ					408
sja	ノ	408	ハ	410	ヒ
(ja)					455
	ヒ	455	フ	482	ヘ
					513
	フ	482	ヘ	513	ホ
					518
	マ	522	ミ	542	ム
					563
	メ	584	モ	586	モ
					586
	ヤ	588	イ	—	ユ
					608
	ユ	608	エ	—	ヨ
					626
	ラ	628	リ	628	ル
					629
	ル	629	レ	—	ロ
					629
	ワ	629	ヰ	—	ヲ
					639
	ヰ	638	ウ	—	ヱ
					—
	ン	639	ン	639	ン
					639
	索引篇	.....	.....	.....	641
	標準語引き索引	.....	.....	.....	641
	語彙一覧	.....	.....	.....	765
	地名一覧	.....	.....	.....	773
	解説篇	.....	.....	.....	775
	引用文献・参考文献	.....	.....	.....	797
	図表	.....	.....	.....	800

## アーガン

気を満たす)。ユミヌ キチ ヤー ～ (嫁が来て家庭を明るくする。家庭に活気を満たす)。③ (田畑を) 有効利用する。【例】ジンバク ～ (田畑を荒廃させないで、作物を作る)。

**アーガン** a:gan [名] (動) アカモンガニ、ベニホシマンジュウガニなど。オオギカニ科。甲らに赤くて丸い模様が点在している。赤ガニの意。内海の深い所や礁原外縁などの岩礁に住む。食べられる。

**アーカンジャ** a:kanzja [名] (虫) トンボの一種。

**アーギ** a:gi [名] 赤毛。アーギーともいう。【語例】アーギユムヌ (赤毛のネズミ)。アー「チャンギに同じ。

**アーギアショー** a:giasjo: [名] (魚) アカマツカサウオヤハナエビス。イトウダイ科。全長約 20cm。うろこは固くて大きい。眼は大きく体色は金光の無地。夜行性で月夜に礁原で歩いて追込みすると捕れる。夜釣りでもよく釣れる。唐揚げ、塩焼き、煮付けなどにする。単にアーギともいう。【例】～ヤ チッキューヌ ユルン ピシバナノンティ カーラシュン (アカマツカサウオは月夜に礁原で網で捕る)。

**アーギ「キビ** a:ki:kibi [名] 赤帯。赤い布の帯。【例】ガッコークキビチャー チュラサル ～ シチ ヤーキビチャー プルキビ シチャン (学校に行くときする帯はきれいな赤帯をして、家での帯は古い帯をした)。

**アーギダ「ウン** a:gita'un [名] (植) サツマイモの一種。葉茎は赤紫で、葉も茎も芋も大きい。【例】～ヤ ブドウイベーサティカラ マサン (赤茎の芋は成長も早くておいしい)。

**アーギ「パダ** a:ki:pada [名] 赤い着物。【例】ワッサル フトゥ シリボー ～ フシラリユン (悪いことをすると、赤い着物を着せられるよ。刑務所に入れられる意。かつてはそうのように使っていた)。

**アーギマ** a:gima [名] (植) カンコノキ。トウダイグサ科。森や屋敷近くなどに生える落葉低木。樹皮は灰色で浅く縦裂する。小枝の先端部分の短い枝は刺状となっている。花は白色の小花で、果実は熟して紫黒色となる。

**アーギリ** a:giri [名] <赤ざれ。農作物などが赤く枯れかけて縮んでいること。【例】ピヤイ シリボー チクイヌ パーヌ ～ シュン (日照りが続くと、作物の葉が赤く縮んで切れる)。

**アーグ** a:gu [名] (幼) (植) ①トウガラシのこと。② (幼児に対して) 食べさせられない物の比喩。【例】フリヤー ～ ナティ コーサランドー (これは辛いもので食べさせられないよ)。アー「グーともいう。→アーグシュ

**アー「クー** a:ku: [名] 赤い粉。食紅。昭和初期頃には食紅のことをそう呼んだ。【例】ヤカガ イクサカティ イェールバン ～ イリティ マイ タチ コーシュータン (兄の出征するとき、食紅を入れて別れの赤飯を炊いて食べさせてくれた)。

**アーグ「サビ** a:ku:sabi [名] (魚) ヤマブキベラ。ベラ科。全長 15～20cm。体色は黄茶色。礁原域に生息する。ベラ類の中で、シャークサビ (シロベラ)

とこのアーグサビが、数も多くよく釣れる。

**アーグシュ** a:gusju [名] ① (植) トウガラシ (唐辛子)。ナス科。5、6月頃、白色の花を開く。実は熟すると赤くなり強い辛味がある。赤胡椒の意。②比喩的に、意地悪や怒りっぽい人のこと。【語例】アーグシュウプ (意地悪おじいさん)。

**アーグシュガラシュ** a:gusjugarasju [名] 唐辛子の塩漬。塩漬けしておけば、一年じゅう使うことができた。【例】アーグシュガラシュアー アーグシュカティ マシュ イリティ チッチョーチ チクユン (唐辛子の塩漬は唐辛子に塩を入れてつき混ぜて作る)。

**アーグシュベ** a:gusjube: [名] トウガラシ酢。酢にトウガラシを入れて漬けたもの。【例】～シ イーナマシ ショーシボー マサン (トウガラシ酢で刺身をあえるとおいしいよ)。

**アー「クブ** a:kubu [名] (地) 赤窪。大字那間に属する小字地名。西の大窪山田に接している。【例】アー「クブアー パジミチャー クブンジー エーティテユン (赤窪はかつては窪地であったそうである)。

**アー「グミ** a:gumi [名] (植) 赤い米。外来の下等米の一種。【例】～ン トーグシトゥ ユルムヌ データル (赤米もトーグシと同じ下等米であった)。

**アー「ゴー** a:go: [名] 褐色。赤茶けたもの。【語例】アー「ゴーキバダ (赤茶けた着物)。【例】モクモースシルシ イッチュー スミティ ～ヌ ヌヌ ウタン (モクマウ木の液汁で糸を染めて褐色の布を織った)。

**アー「ゴーイラ「ブチ** a:go:ira'buci [名] (魚) ハゲブダイの雌。ブダイ科。全長約 30cm。赤茶けた体色をしている。アーゴは褐色や赤茶けた色の意。また、アー「グライラ「ブチ (赤瓦色のイラブチの意) ともいう。礁原域に生息し、小群で泳いでいる。雄はオーバチという。

**アー「サキ** a:saki [名] (地) 赤崎。大字麦屋に属する小字地名。島の東南に位置し、太平洋の海に接している。アーサキウガン、アマンジョー、ノーシクバンタ、ヤドゥンジョーなど歴史的文化財と関係する所があり、与論島の祖先の最初の上陸地だといわれている (与論町誌 718 頁参照)。【例】～ヌ アーヤマナン タティボー ヤンバルン イラブン ミャーリユン (赤崎の赤茶けた山に立てば、沖縄の国頭地方も沖永良部島も見える)。

**アー「サキウガン** a:sakiugan [名] (地) 赤崎御願。小字赤崎の海岸より少し奥に入った小高い所にある。ウブクチ (島の東海にある大きな津口) の神を祭り、航海安全、五穀豊饒、災厄祓い、雨乞いの祈願をする拝所。昔は地域の人々が雨乞いもした。【例】ピヤイ シリボー ～カティ アマガイ シンヤ イジャイ シチャン (日照りが続くと赤崎御願に雨乞いに行ったりした)。

**アー「サキフンドー** a:sakihundo: [名] 赤崎本道。赤崎線道路の名。大字麦屋に属する東区十字路から地名アママゾに通じる全線約 1.3km の道路。昭和 13 年に開通。当時はアママゾ地点で行き止まりであったが、現在は島の一周道路の一部になっている。【例】～カロー クルマン ピチュン ヌンサ トゥーユン (赤

## アーチー

①引き離す。【例】イッチュー ～ ((からまった) 糸を離し分ける)。イェッコイヤ シンナ チチ ～ (喧嘩はすると言って引き離す)。②離乳させる。【例】チー ～ (離乳させる)。

**アー「シュン** a:ʃjuN [動] (アー「サンヌ, 「アー「チ) 目立てをする。【例】ヤッシーシ ノーギーヌ パー ～ (やすりで鋸の目がつぶれたものを鋭くする)。アー「ラ「シュンを多く用いる。

**アー「ジョーミキ** a:zjo:miki [名] 赤ばんでいること。赤っぽいこと。【例】ミーバヤリ カーリボー ミンタマヌ ～ シュン (はやり目にかかること、目が赤く充血する)。

**アー「ジラ** a:zira [名] 赤ら顔。赤みを帯びた顔。【例】キムイジティ ～ ナトゥティ アビユイ (おこって赤ら顔になって怒鳴っている)。

**アー「ジン** a:ziN [名] ①杵。【例】チキウシカティ シチヌ ナイ イリティ ～シ チチャン (つき臼にソテツの実を入れて杵でついた)。②海の彼方などに見える竜巻の黒い杵状の雲。【例】ティンヌ ニーナン ～ヌ サガトウイ (地平線に竜巻が下がっている。竜巻の黒い杵状の雲が見える)。②ではイ「ノーというときもある。

**アー「ジンギ** a:ziŋgi [名] 杵材。【例】アー「ジンギヤー ヤンバルンチュカラ ホータン (杵材は沖縄の国頭地方の人から買った)。

**アー「ジン「チエー** a:ziŋ'cje: [名] ①按司根津栄。島の伝説に残る豪傑の名 (与論町誌 1215 頁参照)。② (地) 按司根津栄の誕生地の通称地名。大字朝戸に属する。【例】～ナンヤ ～マチタン (按司根津栄の誕生地には按司根津栄の霊を祭ってある)。

**アー「ジン「ユン** a:ziŋ'juN [名] (動) パイブウニ。ナガウニ科。褐色の刺が杵 (アー「ジン) の形をして、長いもの短いもの、また大きいもの小さいものと付いている。昼は珊瑚礁の隙間に隠れてじっとしているが、夜になると這い出して動き回る習性がある。【例】～シ フーリン チクティ ハニ モーキタン (パイブウニで風鈴を作ってお金を儲けた)。

**アー「ダー** a:da: [感] あれまあ。あれよ。相手の話すことが信じがたいときや、あきれかえったときなどに用いる。【例】～ ションチン マーランヌ (あれまあ、ほんととも思えない)。～ ヌツチン イチャル (あれまあ、何とでも言うことよ)。

**アー「タダ** a:tada [感] 感心したり、あきれかえったときに発する語。【例】～ヌドゥ シュルチンネー ウトゥショーヤータダ (あらまあ、何の仕事もやりこなし、えらいものだね)。

**アー「タラゴイ** a:taragoi [名] 血色よく肥えていること。【例】～シ イチャリギサイ (血色よく肥えて健康そうである)。

**アー「ダン** a:dan [名] (動) ダニ。口は針状で牛などに寄生して血を吸う。【例】～ヤ イキムシナン クイチチチー ヌミユン (ダニは動物に喰いついて血を吸う)。**アー「チー** a:ci: [名] 赤血。真っ赤な血。【対語】シガジー ((瘡などを切ったときの) 薄い血)。

崎本道からは車も人もよく通る)。

**アー「サクラサ** a:sakurasa [副] <明さ暗さ。早朝の意。朝の暗い時分。アーシカマよりも少し暗い時分。【類語】アーシカマ。【例】～カラ キバユン (朝の暗いうちから働く)。

**アー「ザナギ** a:sa'nagi [名] 赤ふんどし。漁夫が用いた。潜りでサメなどに会ったとき、おどすのに役立つ。【例】ムカシヌ ウンニンチャー ～ シチュタン (昔の漁夫は赤ふんどしをしていた)。

**アー「サビ** a:sabi [名] 赤さび。鉄さび。【例】ハマ コイチヌ チケードグラー ～ クワーサンガネー カットゥン シュン (鎌、鋏など道具類は赤さびを着けないで大事にする)。

**アー「サン** a:saN [形] 赤い。赤色である。だいたい色や赤茶けた色などにもいう。【例】ハディ プカンチゲラ ティンヌ アーサイ (台風が吹こうとなのか《来ようとしているのか》、天が赤いよ)。

**アー「シ** a:si [名] (燈火用の) 松の根。昔石油がなかった頃、燈火に用いられた。松の大樹の切根の枯株を沖縄の山原地方から穀物などと物々交換でもとめた。この松の枯株を極めて細かく裂いて燈火にする。この松の根を裂いた物をアーシという (与論島郷土誌)。【例】ムッカーシャー ヤンバル イジ ～ トウティキチ マーチ テュン (昔は沖縄の国頭地方に行って松の根をとってきて燃やしたそうである)。

**アー「シカマ** a:sikama [名] 早朝。朝のまだ早い時刻。【例】イューガモ ～ イノカティ ユン (アイゴの幼魚は早朝内海に押し寄せる)。

**アー「シジ** a:sizi [名] 赤い筋。①小さな赤い血管などが目や肌などに現われるもの。赤く線を引いたようなもの。【例】ミンタマヌ ～ ピチュイダー (目が赤い筋を引いているよ。血管の筋を引いているよ)。②布地などに赤糸が筋になって織り込まれたもの。

**アー「ジシ** a:zisi [名] 赤肉。肉の赤い部分。【例】～ドゥ コーティ シュージシャー コージンタン (赤肉を食べて白肉は食べなくなった)。

**アー「シジリ** a:siziri [名] 皮膚のただれ。やけどなどで、皮膚が赤くただれていること。【例】タピンチュヌ ウンノンティ パダ ヤキシギティ ～ シチュイ (旅行者が海で肌を焼きすぎて赤くただれている)。

**アー「シツ「キー** a:siq'ki: [名] (動) クリイロナマコ。ナマコ科。【例】～イン クルシツキーイン シツキーチュール シツキーヤ コーリユン (クリイロナマコもクロナマコ、ナマコというナマコは食べられる)。～ヤ ピシバナヌ ナグイヌ フリグチナン マンドゥン (クリイロナマコは外海よりの波の折り返す場所に多い)。

**アー「ジュー** a:zju: [名] 赤汁。魚・肉などから出る汁。【例】～ヤ チュラーサ アローティ ヌギユン (赤汁はきれいに洗って抜く。取り除く意)。

**アー「シューキ** a:ʃjuki [名] (植) クサトベラ。【例】アー「シューキヤー パマバタナン ムイトゥン (クサトベラは海岸に生えている)。

**アー「シュン** a:ʃjuN [動] (アー「サンヌ, 「アー「チ)